

北ゼミ

松岡 美佳†
MATSUOKA Mika†

2017年、北先生ご退職お祝いの会が梅田で開催された。幹事の方々のご尽力もあり、北ゼミらしい格式張らない、和気藹々とした会であった。これまで仕事の関係で、大学院の授業後の飲み会や懇親会になかなか出席することが叶わなかったので、なおさら楽しかった。

この席で、北先生に、親の介護のため早期退職したことをお伝えした。先生は、「お互い新たな人生、第2の人生の始まりですね」とおっしゃり、それから介護の話題になった。席を立つ際、先生とがっちり握手をさせていただいた。先生の手は分厚くて、温かくて、私は今でもその感触を覚えている。

歓談する北ゼミの方々を眺めて、こうして今自分が北ゼミの一員でいられることがどれだけ誇らしく、自分の心の支えや自信になってきたか、あらためて思いを馳せた。

2008年、私は、北先生のご指導をぜひ仰ぎたいと大学院への進学を目指した。当時、職場では大学院進学に対する補助制度があり、思い切って上司に相談してみることにした。上司から別室に呼ばれるやいなや「いったい何を考えているんだ。その年で大学院で勉強したいだ。そうでなくとも人員削減で図書館はみな忙しい。そんなことを考えている暇があったら、もっと仕事をしろ。この補助制度はな、I君のように若くて、優秀で、将来の幹部候補が利用するものだ。自分の立場をわきましろ。どうしても大学院へ行きたいなら、定年退職して時間ができたら、カルチャーセンターへ行くかわりに通ったらいい」などとまくしたてられた。失望を味わい、もう二度と上司に相談するものかと思った。

どうにもあきらめきれない私は、仕事も完璧にこなし、大学院の授業料も自費で、勤務後に自分の時間を大学院の勉強に充てるなら問題はないだろうと考え、受験した。幸いにも合格して喜んでいたら、翌年度、図書館とは全く関連のない学部の事務室へ異動になった。さすがに入学を断念すべきか悩んだ。だが、北先生に事情をお伝えし

たところ、修了を目指して頑張ろうということになった。

異動先の部署はすさまじく忙しいところで、私は入学式にも出られず、授業にも通えない、大学院の勉強すら手をつけられない状態になった。北先生には、今考えれば本当に恐れ多いことだが、講義や勉強や研究のことより、仕事の愚痴を書いたメールを何回かお送りした。無謀にも修論のテーマを変更した。休学を繰り返した。なんとも先行き不安なゼミ生であった。

やがて少しずつ大学院にも顔を出せるようになってきた。いくつかの授業を受講した際、北先生が事前に私の学習困難な状況を説明され、ご理解を求めて下さっていたことを担当教員から伺って、胸が熱くなった。

こうして私は、北先生はじめ村上泰子先生から手厚いご指導をいただき、一方では、ゼミの先輩や研究科の仲間たちのアドバイスや励まし、手助けにも恵まれた。そんな中で忘れてはならないのは、同年に入学して、惜しくも鬼籍に入られた南徹さんだ。同期とはいえ、私たちにとって、尊敬する大先輩であり、親父的存在であった。今も、北ゼミの集まりを天国からご覧になっているに違いない。

北先生、この度は古希の寿齢を迎えられた由、まことにおめでとございます。なお一層のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。こうして大学院時代を振り返り、あらためて衷心より感謝を申し上げます。

私はこれまで、先生がよくおっしゃっていた‘pay forward’の恩恵を受けるばかりでした。今年度から、ご縁があり、図書館・情報学関連の学会で編集委員を務めることになりました。微力ながら、未来への提言や研究の集大成を発信される研究者の方々のお手伝いをするようになります。私も少しはお役に立てるのでしょうか。

北先生、これからもどうか私たちを温かく、時には厳しく見守っててください。

[受理：2018年9月10日]

† 大阪市立大学大学院創造都市研究科修士課程修了